

「春宵十話」 岡 潔 著 光文社 2006 年 10 月発行（1963 年 2 月 毎日新聞社刊）

「数学をもっと分かりたい。」そう思う学生さんも多いのではないのでしょうか。そのような人にとって、本書は大きなヒントになるかもしれません。

岡潔（おか きよし・1901～1978）は、日本を代表する数学者です。新しい数学を切り拓いただけでなく、「心とは何か」、「人間はいかに生きるべきか」といった哲学的な問いにも深く向き合いました。私は物理学を専門としていて、数学を専門としてはいません。それでも、「もっと深く数学をわかりたい」という思いを胸に、日々教壇に立っています。

この本の中で岡は、人間の「情緒」を強調します。情緒こそが人を動かす本当の力であり、数学を生み出す源でもあると語ります。現代に生きる私たちは、情報の海に溺れ、論理や効率を重んじるあまり、心の奥にある「感じる力」を忘れがちです。技術者を目指す皆さんにとって、理屈や構造を捉える力はもちろん大切ですが、同時に「なぜそれをするのか」、「自分は何を感じているのか」といった内なる声に耳を澄ますことも欠かせないのではないのでしょうか。

数学に限らず、高専で学ぶ技術や科学は人間が生み出したものです。であるなら、その背後には必ず「心」があるはずです。『春宵十話』は、その「心」の深みへと私たちを導き、技術や科学の学びを新たな視点から見つめ直すきっかけを与えてくれると思います。高専での学びをより意味あるものにしたいと願うあなたに、岡の言葉はきっと響くはずです。